

1 まち育てプランの考え方

1-1 策定の目的と位置づけ

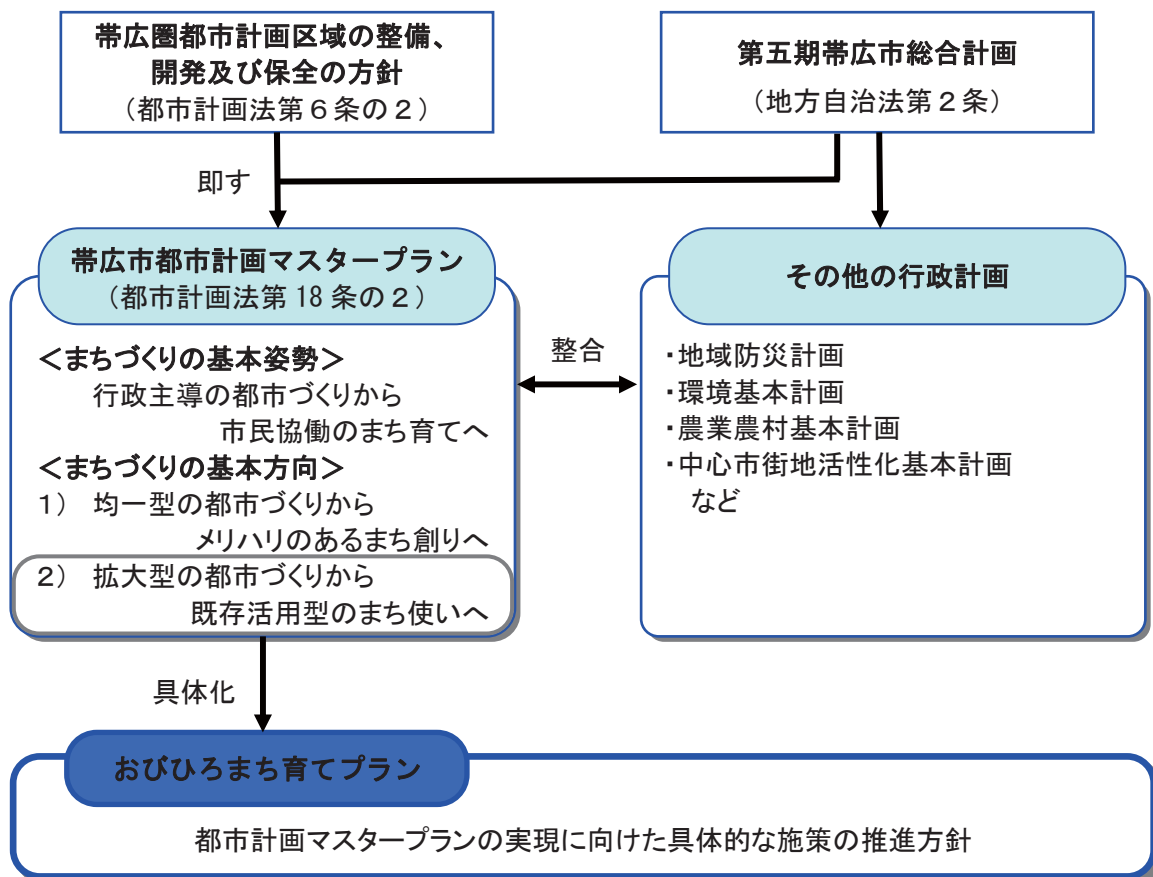
近年、少子高齢化や人口減少、さらには国際化の進展と都市間、地域間競争などが顕在化してきており、厳しい財政環境が続く中で、まちづくりは大きな転換期を迎えています。

また、効率的、効果的な施策の推進や地域の個性、特性を活かした持続可能な地域づくりに向けて、既存の社会資本ストックの有効活用も必要になっています。

こうした社会経済状況の構造的な変化を踏まえ、帯広市では、平成15年8月に都市計画マスタープランを策定し、まちづくりの基本姿勢を「行政主導の都市づくりから市民協働のまち育てへ」、基本方向を「拡大型の都市づくりから既存活用型のまち使いへ」として、自然環境や人にやさしく、コンパクトで持続可能なまちづくりをすすめてきました。

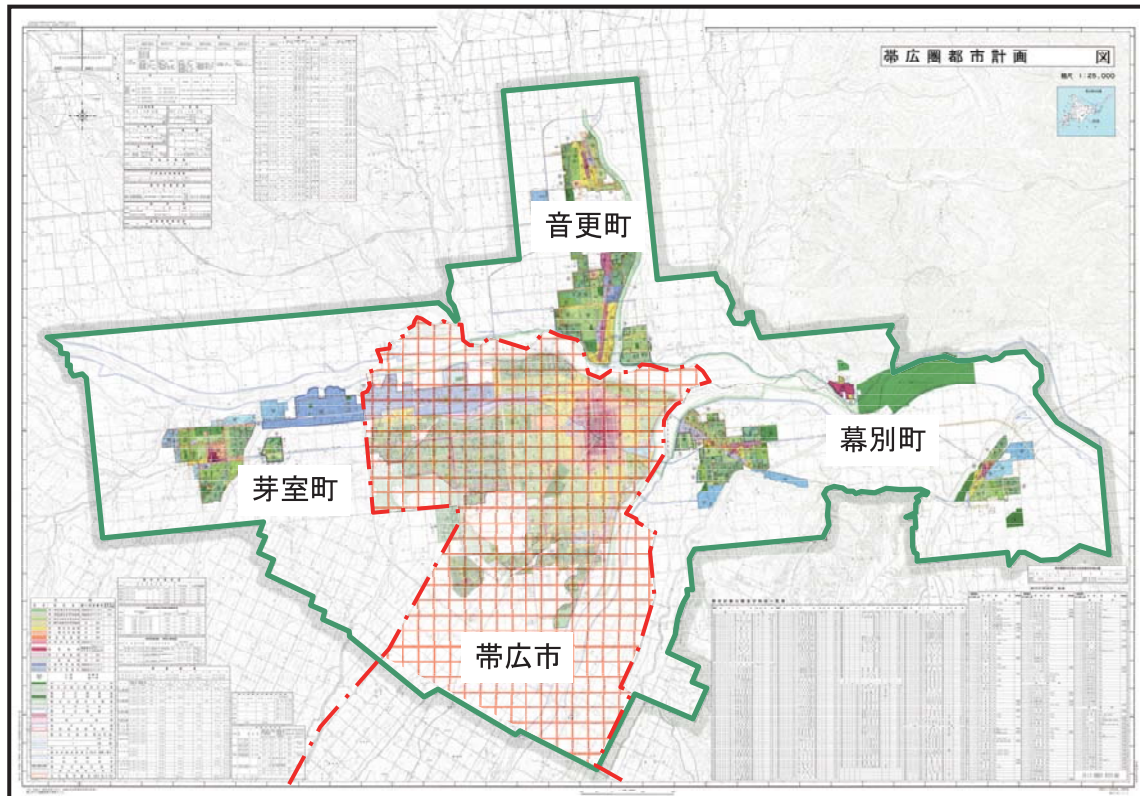
「おびひろまち育てプラン」は、この都市計画マスタープランの基本方向の実現に向けて、具体的な施策の推進方針を示すことを目的に策定したものです。

【プランの位置づけ】



1-2 対象区域及び計画期間

本計画は、都市計画マスタープランと整合をはかり、帯広市の都市計画区域を対象とし、計画期間は平成35年を目標年次とします。



凡 例	
	帯広市行政区域
	帯広市都市計画区域
	帯広圏都市計画区域

1-3 策定体制

計画の策定にあたっては、庁内の関係部からなる「コンパクトなまちづくりプロジェクト」を組織し、計画の基本的考え方や構成の在り方について検討を行いました。

平成19年度には公募による市民、各分野の有識者、学識経験者からなる「まちづくり検討委員会」を設置し、協議、検討を行いました。併せて、各種施策の横断的な整合をはかるため、関係各課で組織する「庁内策定委員会」を組織し、まちづくり検討委員会と連携をとりながら素案を作成しました。

また、素案に対してパブリックコメントを実施し、市民の方々から広く意見を募るとともに、各種団体・組織との意見交換を実施し、その結果を踏まえプランを取りまとめました。

【計画の策定体制】

